

市立

1999年(平成11年)3月31日発行

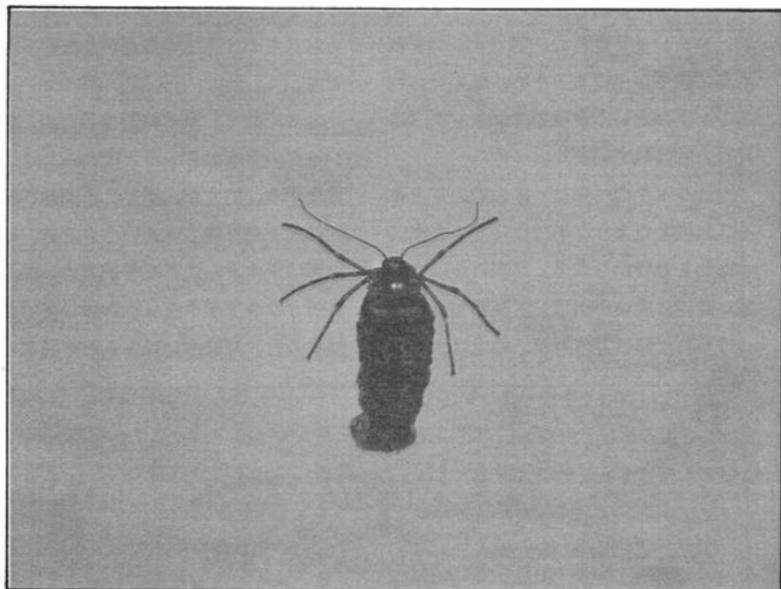
# 市川自然博物館

## 12・1月号

(通巻第59号)

## だより

いちかわの  V 冬だけ活動する蛾



△フユシャク的一种、ウスバフユシャク。写真はメスで、フユシャク類のメスは、翅が退化して飛ぶことができません。

# いちかわの蛾 V 冬だけ活動する蛾

フユシャクは、冬の寒い時期に成虫が出現し、交尾、産卵といった繁殖活動を営む蛾です。他の多くの蛾が春～秋に繁殖を行い、冬は休眠状態で越冬するのは対照的です。またフユシャクは、雑木林という環境と深く結びついた生活を送ることで知られています。今回は、フユシャクという蛾について紹介します。

## ●冬に活動し、夏に休眠する

フユシャクはシャクガ科というグループに属する蛾です。シャクガ科は、幼虫がいわゆる尺取虫なので「尺蛾」と呼ばれていて、さらに9つの亜科に分けられています。一般にフユシャクとして定義づけられているのは、シャクガ科のうちのフユシャク亜科の全種、ナミシャク亜科、エダシャク亜科の一部です。いずれも冬に成虫が出現するため、冬に見られるシャクガという意味でフユシャク（冬尺）と呼ばれています。

フユシャクの一年は、他の蛾の夏と冬を入れ換えたような形になっています。すなわち晩秋から真冬、早春にかけての寒い時期に成虫が出現して産卵し、産みつけられた卵は春に孵化、幼虫は木々の

若葉を食べて成長し、初夏の頃にはさなぎになってしまいます。さなぎは、いわゆる土まゆで、土の中に部屋をつくってその中でさなぎになります。一生のうちではさなぎの期間がもっとも長く、初夏から晩秋の羽化の時期までをさなぎで過ごします。言ってみれば、夏の暑い時期をさなぎの状態ですごしているわけです。

冬に活動し、夏に休眠するため、フユシャクの生活はちょっと変わったように見えます。ですが、活動に不適な季節をさなぎですごすという点では、その生活は昆虫としてごく普通です。モンシロチョウやアゲハチョウがさなぎで冬を越すと、意味合いはまったく同じです。

図1 フユシャクノ一生涯



## ●市川市内の雑木林で

日本には、およそ30種類のフユシャクが生息しています。そのうち市川市内で過去記録があるのは4種類、そして比較的良好に見られるのは、そのうちの2種類です。

### 1. ウスバフユシャク (図2、図3)

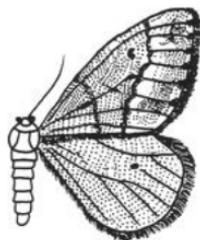
全国的に普通に見られる種類で、市川市内でもわりとよく見られます。成虫は12月下旬から1月上旬にかけて出現し、オスには赤褐色の翅があります。ただし個体変異も多く、翅の色彩が濃いものもあれば、逆に薄くて翅の線が目立つものもあります。幼虫は早春に出現し、やはり体色には個体変異が多く見られます。普通は緑色ですが、紫褐色や赤紫色の幼虫も混じっています。

幼虫は樹木の葉を食べます。いわゆる多食性で、バラ科やブナ科など5科にわたる種類を食べます。中でもバラ科をよく食べるため、モモやナシの害虫として扱われることもあるようです。おもに雑木林に生息しますが、冬に街路樹のサクラの幹を探しても比較的容易に成虫を見つけることができます。

### 2. クロテンフユシャク (図4)

全国的に普通に見られます。ウスバフユシャクに非常に近い種類で、オスの成虫の翅にある斑紋や大きさもよく似ています。しかし、翅にある線の形が異なり、翅の色彩も薄茶色でウスバフユシャクとは異なります。また、クロテンの名のとおり、翅にある黒い点も大きくてよく目立ちます。

図2 ウスバフユシャク (オス)



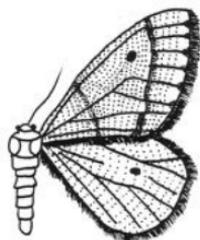
開張: 2.2 ~ 3.1 cm

図3 ウスバフユシャク (メス)



体長: 2.0 cm

図4 クロテンフユシャク (オス)



開張: 2.1 ~ 3.1 cm

成虫は、市内では12月上旬から3月中旬と、比較的長い期間見られ、もっぱら雑木林のクヌギやコナラなどの幹で見つかります。幼虫には緑色型と褐色型の2タイプの体色がありますが、褐色型の方が多く見られます。

幼虫は多食性で、ブナ科やニレ科など6科の樹木の葉を食べ、なかでもクヌギやコナラなどのブナ科の樹木を好むようです。また、ウスバフユシャクと違い、サクラなどのバラ科を餌とすることはありません。5月上旬には土中に潜ってまゆを作り、その中でさなぎになります。

なお市川市内で記録がある残り2種は、シロオビフユシャクとシモフリトゲエダシャクです。

### ●飛べないメスと雑木林

フユシャクというと、冬の明るい雑木林のイメージが浮かびます。実際、フユシャクが生活の場としているのは総じて雑木林です。それは、幼虫の餌となる樹木が雑木林に多いことによるのですが、フユシャクの場合、メスが飛べないという事情がなお一層、雑木林との結びつきを強固なものとしています。

フユシャクの成虫は、オスではごく普通に翅があり、他の蛾と同じように飛ぶことができます。ところがメスでは、翅が退化していたり縮小しているため、飛ぶことができません。土中でさなぎから羽化すると、幼虫の餌となる種類の木にはい上がり、その木の幹で過ごします。

オスの飛来を待って（オス呼び寄せで）交尾をし、その木の幹で産卵し、生まれた幼虫はその木の若葉を食べて育ちます。メスが飛べないことにより、一本の木に対する依存度がきわめて高くなっているわけです。

また、メスが飛べないということは、一度、その雑木林からフユシャクが失われると、なかなか復活しないことも意味します。かつて広大な雑木林が連続してあった頃は、木から木へとじわじわ分布を広げることもできたでしょう。しかし現在の市川市内のように、小規模な林が点在して残っているような状態では、林と林の間をフユシャクが移動することはオスを除いて不可能です。当然、一度失われれば復活はできません。その意味では、市川のように都市化が進んだ地域においてフユシャクは、かつての自然が豊かだった時代の雑木林の生き証人ともいえる存在なのです。



# 街かど自然探訪

おじゃまします!

ひろお

## 広尾・花見にゆこう

広尾公園の隣に、いわゆる花木がたくさん植えられた緑地があります。特に、ウメやサクラは本数も多く、地元の人には花見の場所として有名です。他にもツバキやフジ、カラタチなど目立つものだけでも約15種類あり、一年を通して花や実を楽しめる場所になっています。

緑地は、人々の憩いの場であるとともに、野鳥にとっても貴重な場所です。ここではヒヨドリが枝にとまり、ツグミが土の地面をつつく姿などが見られました。



## 掲載種紹介



### オオタカ

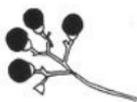


分類 鳥 フタカ科  
ランク 危急

市内では、冬期、幼鳥を中心に観察されます。大町公園や、柏井雑木林、国府台～北国分地区、行徳鳥獣保護区などの事例が多く、いずれも小規模な林や緑地なので、相互に行き来している可能性もあります。

自然保護のシンボリックな鳥ですが、市内では繁殖例がありません。やはり繁殖には、まとまった面積の林が必要です。オオタカの広い行動圏の一部に市川市が含まれると考えるのが妥当なようです。

8月7日、  
くすのきの実が見当たりません。



花が咲けば、当然、実がなります。クスノキの実は直径7mm程度の球形で、夏の未熟な時は緑色、秋になって熟すとつやのある黒色になります。

水垣さんの観察では、民家の大木のクスノキでは実がなっていたのに街路樹では見当たらない、葉も小さい……とのこと。やっぱり木が小さいと、花も少ないし実もつきにくくなります。街路樹の宿命かもしれません。

(情報提供：水垣麻理子さん)



ただいま

**ホームページ発信中!**

Let's access!!

[ <http://www.city.ichikawa.chiba.jp/nature/> ]

### 市川の野生生物 電子図鑑(続き)

電子図鑑では、まず「市内の貴重な植物」「市内の貴重な動物」と題して、都市化が進む市川において、今後、配慮していく必要がある生物について紹介しています。

つぎに「江戸川放水路の生物」「大町自然観察園の生物」と題して、市川市内に残された貴重な自然環境である江戸川放水路と大町公園の自然観察園を取り上げ、そこで見られる代表的な生物を紹介しています。

第1集「市内の貴重な植物」

No.	種名・学名	撮影日	撮影場所	イメージ
1	クワモズク	81/02/01	大野町4丁目、自然観察園	
2	イヌフクリ	85/04/04	堤之内7丁目、堤之内児童	
3	イカリシロ	86/04/07	大野町4丁目	
4	オトギリソウ	86/07/21	堤之内4丁目	
5	エビノ	86/05/16	内蔵です	
6	ミナ	86/06/22	大野町4丁目、自然観察園	
7	ミナトナギ	86/06/19	大野町4丁目、自然観察園	
8	ノカサナ	86/07/21	堤之内4丁目、堤之内児童	
9	フジイタギ	86/06/22	堤之内4丁目、堤之内児童	
10	ハンコ	86/02/12	大野町4丁目、自然観察園	

[電子図鑑 サンプル]

わたしの  
**観察ノート**  
No.41

◆自然観察園より

- ・ツルシギとツツドリを見ました。カケスとコジュケイの声を聞き、キセキレイも見ました(9/28)。

石井信義さん(菅野在住)

- ・フキバツタの一種が見られました。フキバツタはイナゴ科に属する森林性のバツタで、翅がごく短いのが特徴です(10/10)。

金子謙一(自然博物館)

- ・タチツボスミレが咲いていました。この秋は季節を間違える植物がいろいろ話題になっています(10/21)。

宮橋美弥子(自然博物館)

◆柏井雑木林より

- ・市内では珍しい林内の池で、今年もカトリヤンマとリスアカネが見られました。また、クロスジギンヤンマとオオアオイトトンボの産卵も見られました(10/3)。

金子謙一

◆国府台～北国分あたりより

- ・真間山弘法寺上空を低く飛ぶショウドウツバメ3羽の群れを見ました。市内では実に10年ぶりの観察です。また、里見公園ではサンコウチョウのメス1羽、キビタキのオス1羽、クロツグミのメス1羽(市川市内での初観察)、カケス1羽、メジロ多数を見ました。

最後に、堀之内貝塚でもショウドウツバメ1羽が飛んでいました。また園内の林の奥の方角からフクロウの「ホーホー、ゴロスケ、ホーホー」と鳴く声が聞こえてきました。昼間鳴くのを聞いたのは2度目のことです(10/4)。

- ・国府台2丁目でアオジが山から下りて来たのを確認しました。同じく国府台4丁目では、雑木林から飛び出したアカゲラ1羽を見ました。堀之内貝塚では、移動中のマミチャジナイ数羽とキビタキのオス1羽、メス1羽を見ました。小塚山市民の森では、ヤマガラを初観察。アカゲラのメス1羽も出しました(10/25)。

◆菅野より

- ・まだ真っ暗な早朝の空からツグミの聲が響いてきました(10/26)。

以上 根本貴久さん(菅野在住)

◆江戸川放水路より

- ・干潟の周辺など、塩分がある湿地にだけ生育するウラギクが咲いていました(10/20)。100株以上はあるように見えました。環境庁のレッドリストで絶滅危惧種に指定されている植物です。

金子謙一

◎何度か台風が列島を襲いましたが、直撃はありませんでした。



# 博物館利用あんない



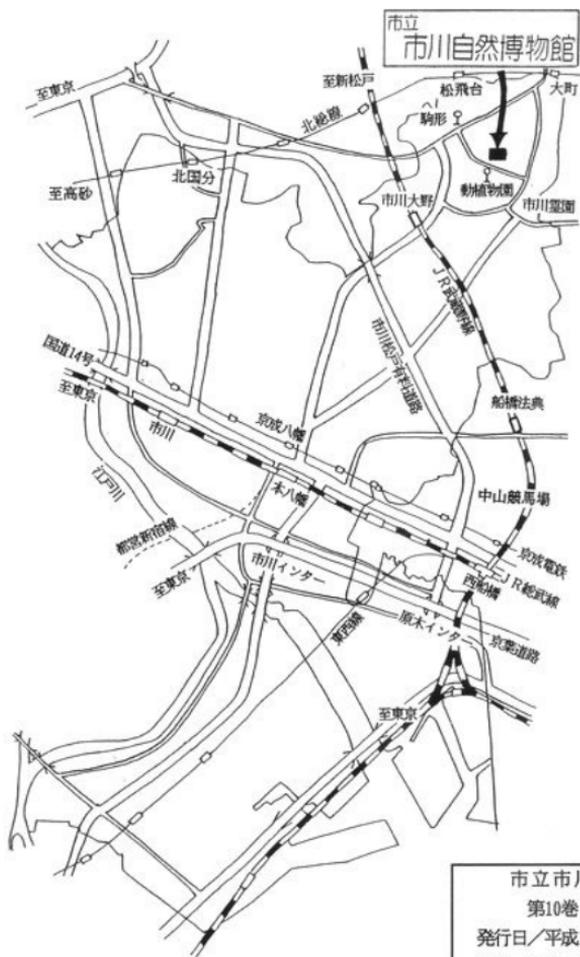
## ●開館時間

午前9時30分～午後4時30分

## ●休館日

毎週月曜日・年末年始

(ただし月曜が休日の場合は翌日)



## ●交通

### ●JR本八幡駅から

京成バス

\* 「動植物園」行き  
終点下車

\* 「大町駅」行き  
「駒形」下車  
徒歩15分

※どちらのバスも、  
京成線  
「京成八幡」駅  
JR武蔵野線  
「市川大野」駅  
に停車します。

### ●車の場合

動植物園入口にある  
駐車場(普通車1台  
500円)を、ご利用  
ください。

市立市川自然博物館だより

第10巻 5号 (通巻第59号)

発行日/平成11年3月31日

編集・発行/ 市立市川自然博物館

〒272-0801 千葉県市川市大町 284番地

☎ 047(339)0477

<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/nature/>